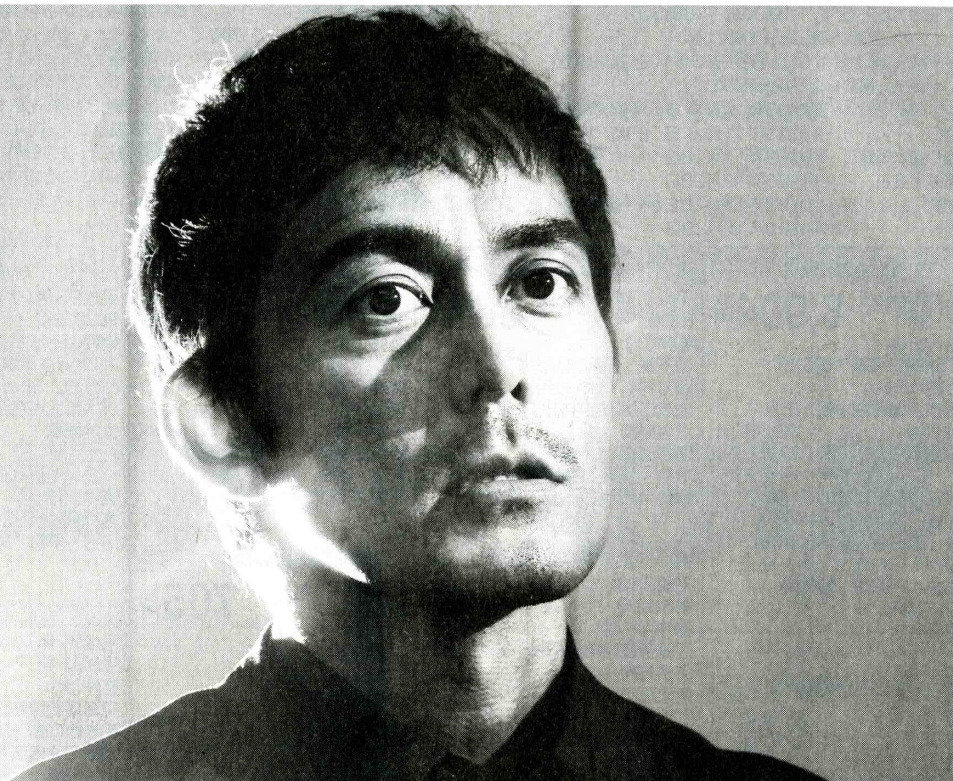


映画「天

ド活動を支えた男性がいた。その人物、仲宗根陽さんは2009年11月、がんのため42歳で他界。約1

妻や母親が「映画化は故人の遺志だから」と全面的に支えてくれた。生前の姿が残る映像を繰り返し見て、

尾崎孝撮影



んだって生前の目線が分かる。高校がすぐ近くにあるのには驚きました。毎日生徒たちを見てたら、応援したい気持ちになるだろうと思っ

「夢をあきらめるな」と言い続けた男の物語から、何かを感じてもらえたら」(西田大智)

©2011「天国からのエール」製作委員会



こんな話

沖縄県北部の本部町で、大城陽(阿部)は小さな弁当屋「あじさい弁当」を営み、妻の美智子(ミムラ)や娘、母の千代と暮らしていた。

ある日、同級生とバンドを組む近くの高校生アヤ(桜庭ななみ)が、練習場所がなくて困っているのを知る。店のガレージを貸すものの近所からの騒音の苦情で断念し、スタジオを作ることに。子どもたちの夢を情熱的に支えるが、がんが再発していた――。

監督は熊沢誓人。全国の劇場で公開中。

「夢をあきらめるな」と言い続けた男の物語

戦前の名手の愛器奏でる

名付けた。「木造建築のよ プルだけど奥が深い」うなよさがある楽器。シン

平岡ファンからも手紙が届く。「『戦

時中、軍需工場に平岡さんが慰問に来て心が安らいだ。またその木琴が聞ける

とは」と。だから、その世



通崎睦美 木琴リサイタル

マリimba奏者の通崎睦美(つらぎ りさみ)が13日、京都市上京区の京都府立府民ホール「アルティ」で木琴リサイタルを開く。2005年、戦前の米国で活躍した木琴奏者、平岡養一の愛器を、演奏を機に遺族から譲り受けた。米シカゴで特注した1935年製。その「カラツと明るく華やかな」音色を存分に聴かせる。

木琴のみの公演という新しい試みを「木琴文庫」と

代の方も楽しめる曲を入れました」。ピアノの西脇千花とフォスター「おおよソナ」、貴志康一「日本狂詩曲」、リコーダーの本村睦幸とバロック音楽も。新作の野田雅巳「発明家」、福島民謡「相馬流れ山」も披露する。

午後7時開演。☎075・211・0261。